



議会だより

中学生模擬議会2022開催！



村議会議場(役場3F)にて 村長・教育長と

一般質問 動画配信中

QRコードから各議員の一般質問動画が観られます。▼



インターネット村ホームページ▶
村議会▶本会議録画中継▶定例会

主な内容

- 中学生模擬議会2022 P 2～P 3
- 物価高騰対策など補正予算：12月定例会 ... P 4～P 6
- 一般質問 P 7～P 15
- 議会活動(商工会との懇談会ほか) P 16～P 17
- きらきら村の仲間たち：150年村誌編さん委員
..... P 18～P 19
- モニターの声 P 20

中学生模擬議会 2022



れた不法投棄ごみは、生活環境係で回収している。不法投棄は犯罪行為だが、すぐに解決することは難しい。改善に向けて粘り強く取り組んでいく。

問 ごみ拾い活動の充実が必要だと考える。今後どのような対策を講じていくか。

村長 自発的なごみ拾い活動をもっと推進していく必要がある。同時に不法投棄に対しては、防犯カメラを設置するなど厳格な対応が必要だと考える。

住民環境課長 不法投棄の多い道路や河川沿いに、不法投棄を防止するための看板を設置。悪質な場合は警察と協力し、不法投棄を減らす活動を行っている。また、村内一斉ゴミゼロ運動を毎年5月に実

たい。

るよう協力をお願いし

い村を守り続けていけ

施しているので、美し



◎渡邊凛太郎議員



問 村を挙げて現代
的な課題に取り組むた
めに、「SDGs推進課」
を設置してはどうか。

村長 村役場の良い
ところは、程よい分業
化が進んでいるところ
SDGsのような新しい
取り組みを村全体で
やっていく場合、全体
像がわかる形で分業が
進んでいる村役場なり
のやり方がある。

地域づくり推進課長

村には総合計画があり、その計画とSDGsの17の目標を結びつけてあるので、計画を進めていくと目標を達成できるしくみになっている。村役場にはいろいろな課があるが、それぞれの課の本来の役割の中でSDGsと関連する目標を意識しながら仕事を進めていけば、SDGsの取り組みが充実すると思う。

今日の模擬議会での質問は、役場と住民がパートナーとして手を取り合って進めていかなくはならないことはかりで、みんなで意見を出し合い話し合うと、いろいろな可能性が見えてくる。ぜひこれから、思いきって意見を言うことを実践してほしい。

△参加した生徒の感想▽

○議長・事務局長を務めました。リハールはしたもの、本番が近づくにつれて緊張してきました。「予想外のことが起きたらどうしよう」「焦らないようにしよう」など、いろいろな考えとより緊張してしまい、不安が出てきてしまうと思ったので、あまり考えないように素直にいこうと思いました。特に問題なく終わり、ほっとしました。「緊張を乗り越えたと快い空が見えるな」と改めて感じました。

△オンラインで視聴した生徒の感想▽

○私は正直、村議会というものが何なのか知りませんでした。いざオンラインで見てみると、緊張感が漂っていて、こつちまで緊張してしまいました。質問・答弁しか見られませんでした、政治は成り立っているのだなと思いました。

○議員の話を聞いていると、村民なのに、私はあまり村のことを知らないということがわかりました。今度、村のパンフレットや冊子を見かけたら、積極的に読むようにしたいと思いました。また、特に南箕輪村は水が少ないということが印象に残りました。水を大切にしたいです。

※ 中学生模擬議会の動画を議会ホームページからご覧いただけます。

11月25日、3年ぶりに中学生模擬議会を開催し、南箕輪中学校3年生5人が議員として一般質問に臨みました。議長・事務局長も生徒が務め、総合学習で学んだSDGs(持続可能な開発目標)に関する村の課題について質問し、村長と教育長、担当課長が答弁しました。また、オンラインで3年生の各教室にライブ配信し、議場の雰囲気共有しました。この経験が、今後子どもたちの学習の幅を広げる一助になることを願います。



河西 桜さん

吉岡大輝さん

問 村内の相対的貧困の現状をどのように捉えているか。

村長 課題は貧困の連鎖。教育格差を改善するよう検討している。

健康福祉課長 コロナや物価高騰の影響が大きい世帯への支援として、臨時特別給付金の上乗せ支給や地元応援商品券の追加交付などを行っている。社協など関係機関とも連携して、できることから取り組んでいく。

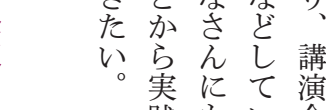
問 子どもが豊かに育つ村を目指す取り組みとして、こども食堂

男女共同参画について
村報などで取り上げた
り、講演会を開催する
などしていきたい。み
なさんにも、できるこ
とから実践していただ
きたい。

◎赤沢 壘議員



問 村の水資源の利
用や保全をどのように
考えているか。



としているが、多くは農業用水や生活用水で利用されているのが現状。湧水地は、災害時などの緊急用飲用水として利用する。今後の水資源の利用は、大泉川砂防ダム付近に小水力発電所を建設し、再生可能エネルギーとして利用することを考えている。水資源の保全としては、源流がある森林の保全育成活動を行っている。

問 村の水をブランド化できないか。村の水を利用した振興策を考えているか。

建設水道課長 水のブランド化は難しいが、田畑の半沢ホタルの里や大泉川でもホタルが多くみられるようになった。このような自然の水環境が村の観光振興につながると考える

◎郷原叶多議員

問 村内に捨てられているごみを、どのように捉えているか。

村長 問題と捉えているのは不法投棄。しっかりと対策することが必要。

住民環境課長 通報さ

原油価格・物価高騰対策など 補正予算可決

12月定例会は11月28日から12月9日までの日程で開かれました。

14議案はすべて原案のとおり可決、同意。陳情が5件提出され、採択1件、趣旨採択1件、不採択
査となっていた陳情1件が採択となったことにより、意見書2件が採択されました。そのほか、議会

2件、継続審査1件となりました。また、9月定例会で継続審
運営委員会提出の議案1件が採択されました。



令和4年第4回臨時会（10月19日）

件 名（議案名はわかりやすく簡略表記しています）		賛 成	反 対	議決結果
令和4年度補正予算関係（別表2）	一般会計補正予算（第7号）	9	0	可決
	下水道事業会計補正予算（第3号）	9	0	可決

令和4年度補正予算（千の位以下切り捨て表記）

別表1

会 計 別		補 正 額	補正後の総額
一 般 会 計 補 正 予 算（第8号）		1億4556万円	72億2461万円
一 般 会 計 補 正 予 算（第9号）		（予備費より充当）増減なし	72億2461万円
国民健康保険事業特別会計補正予算（第2号）		897万円	12億5206万円
後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号）		5万円	1億5108万円
水道事業会計補正予算（第3号）	収益的収入	増減なし	2億8629万円
	収益的支出	130万円	2億7221万円
	資本的収入	増減なし	1454万円
	資本的支出	15万円	7922万円
水道事業会計補正予算（第4号）	収益的収入	増減なし	2億8629万円
	収益的支出	31万円	2億7253万円
下水道事業会計補正予算（第4号）	収益的収入	増減なし	5億7721万円
	収益的支出	1503万円	5億9324万円
	資本的収入	増減なし	4億0278万円
	資本的支出	480万円	5億6087万円
下水道事業会計補正予算（第5号）	収益的収入	増減なし	5億7721万円
	収益的支出	17万円	5億9341万円

令和4年度補正予算（千の位以下切り捨て表記）

別表2

会 計 別		補 正 額	補正後の総額
一 般 会 計 補 正 予 算（第7号）		1億1499万円	70億7904万円
下水道事業会計補正予算（第3号）	資本的収入	増減なし	4億0278万円
	資本的支出	650万円	5億5607万円

「議会基本条例」
（5ページの※注釈）
って？
議会基本条例とは、
議会運営の原則や議
会・議員の基本姿勢を
明文化したもので、南
箕輪村議会では2年ご
とに検証を行っていま
す。その検証を基に、
今回の12月定例会で南
箕輪村議会基本条例を
改正し、さらなる議会
機能強化と議員一人ひ
とりの資質向上を目指
します。



定例会最終日の動画をこちらからご覧いただけます。

選択的夫婦別姓制度の導入について国会審議の推進を求める意見書

最高裁判所は2015年及び2021年、夫婦同姓規定自体は合憲と判断しましたが、同時に選択的夫婦別姓制度について「合理性がないと断ずるものではない」と言及し、制度の在り方について「国会で論じられ、判断されるべき」と国会に委ねました。

2018年3月20日の衆議院法務委員会において、夫婦同姓を義務づけている国は、世界で日本だけであることを法務省が答弁しました。世界で唯一、結婚時に夫婦同姓しか選べない日本では、望まない改姓による課題が山積しています。平均初婚年齢は年々上がり、現在30歳前後であり、男女ともに生まれ持った氏名で信用・実績・資産を築いてから初婚を迎えるケースが多いため、改姓時に必要な事務手続きは確実に増えています。戸籍姓でのキャリア継続を望むゆえに事実婚を選ぶ夫婦も少なくありません。また、少子化により一人っ子同士のカップルが増えたことで、「改姓しなくていいなら結婚したい」という声も聞かれます。さらに、人生100年時代、子連れ再婚や高齢になってからの結婚・再婚も増加傾向にあります。選択的夫婦別姓制度は、「家族で同じ姓の方が一体感が深まる」と考えるカップルが引き続き夫婦同姓で結婚できる一方で、結婚前の姓を互いに維持したいカップルは改姓せず、夫婦別姓を選ぶようにするものです。これは、男女が改姓による不利益を案ずることなく結婚・出産し、老後も法的な家族として支え合える社会につながり、少子化対策の一助ともなります。

また、法的根拠のない「旧姓併記」がこれ以上広がることによる社会の混乱、例えば災害時の本人確認や公的書類への記載などで2つの「姓」を使い分けることによる混乱や、事実婚増加による婚姻制度の形骸化、また、戸籍制度の形骸化を防ぐこともできます。さらに、法的根拠のある生まれ持った氏名でキャリア継続できることから、女性活躍の推進にも寄与すると考えます。

よって、政府及び国会に対し、男女がともに活躍できる社会実現のため、選択的夫婦別姓制度の導入について国会審議の推進を求めます。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和4年12月9日

長野県上伊那郡南箕輪村議会

議長 百瀬輝和

(宛先) 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、総務大臣、法務大臣、内閣府特命担当大臣 (男女共同参画)

不登校児童生徒に対して多様な学習機会の確保のための経済的支援制度の確立を求める意見書

令和3年度の義務教育段階における不登校児童生徒数は全国で24万4,940人と8年連続で増加しており、長野県内でも約3,800人が不登校と、依然高水準で推移している。

また不登校の定義となっている年間欠席30日以上に当てはまらないが、保護者や学校の配慮により出席扱いになっているなど事実上の不登校児童生徒数も鑑みると、文部科学省調査だけでは実態が把握しきれていないと言え難く、潜在的な不登校児童生徒も多数存在していると考えられる。

このような中、フリースクール等の民間施設を利用する際の家庭の実情を見ると、利用料月3万3千円程度(文科省調べ)という経済的負担に加え、身近に通う民間施設が無い場合には遠方への通学のための身体的、時間的、心理的負担も加味しなければならない。

多様な学習機会を提供する民間施設への需要が高まっているのに対し、民間施設を設立するための経済的支援制度は一部の自治体が制定しているのに留まっており、必要な資金が確保できず設立を断念している個人や団体も少なくない。

以上のことから、現状では、教育機会確保法の基本理念2に明記される「不登校児童生徒が行う多様な学習活動の実情を踏まえ、個々の状況に応じた必要な支援」が果たされているとはいえない状態であり、早急な具体的対策を講じる必要があると考える。

よって国において、不登校支援の一部である多様な学習機会を確保するための具体的対策として、次の事項について強く要請する。

記

- 1 教育機会確保法制定に際し、衆議院文部科学委員会と参議院文教科学委員会がそれぞれ附帯決議した内容である「不登校の児童生徒が、いわゆるフリースクール等の学校以外の場において行う多様な学習活動に対しては、その負担の軽減のための経済的支援の在り方について検討し、その結果に基づき必要な財政上の措置を講ずること」を進めること。
- 2 いわゆるフリースクール等民間施設の設立及び運営に対する補助金等の経済的支援制度を確立すること。
- 3 国からの経済的支援制度確立までの経過措置として、教育支援センター(適応指導教室)の充実、及び、いわゆるフリースクール等民間施設設立・運営やそこに通う児童生徒に対する補助を各市町村の教育委員会が自主的に行えるよう、速やかに必要な施策を講じること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和4年12月9日

長野県上伊那郡南箕輪村議会

議長 百瀬輝和

(宛先) 衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、内閣官房長官、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣

外部コーチの謝金の見直しは

具体的な内容を検討していく(教育長)

問 中学校部活動の地域移行における現状と取り組み状況は。

答 は、大きく4点。

① 中体連の動きが見え

② わくわくクラブ等と

③ 指導者の不足。休日の指導となれば複数の指導者が必要。

④ 地域移行を推進するために「地域部活動協議会」を立ち上げる必要がある。

⑤ 南箕輪村スポーツ推進基本計画の推進状況と達成率は。

⑥ 教育長 進捗率は25%。

⑦ わくわくクラブの現状と課題は。

⑧ 教育長 課題は①クラブ運営理事の高齢化による減少。

⑨ 指導者の不足。

⑩ 外部コーチの謝金の見直しは。

⑪ 教育長 近隣自治体



登内瑞貴



との差異が出てくるようであれば、指導者流出も懸念される。また、地域移行を進める上でも課題として認識している。今後、具体的な内容を検討していく。

ペット等多頭飼育崩壊について

問 当村の多頭飼育の現状は。

答 当村における多頭飼育の届け出数は2020年度で2件、2021年度で1件。

課題としては、猫による糞尿や車を傷つけるなどの苦情、車にひかれた猫の回収が毎年50件ほどある。村としては、苦情や通報に対して、飼い主や餌を与える人に安易な餌やりを行わないようお願いしている。また、不妊・去勢手術の案内もあわせて行っている。

問 実態把握方法と数値基準は。

住民環境課長 実態把握手段としては、糞尿や匂いなどの被害を受けている住民からの苦情・通報が主なもの。

また、伊那福祉事務所からの情報提供もある。判断数値基準については、長野県の条例9条により10頭以上としている。

問 村独自の避妊・去勢の助成金の検討を。

住民環境課長 長野県動物愛護会上伊那支部で実施しており、一匹あたり3000円の助成をしている。独自の助成金については、先進地域の政策を参考に、今後の検討課題としていく。県や民間のボランティア団体等との連携を強化していくということも重要であると考えている。

運動部活動の地域移行に関する検討会議提言 (令和4年6月6日) の概要【各論】

○地域における新たなスポーツ環境の在り方とその構築方法等 (第2章)

参加者	全ての参加する生徒を想定。
実施主体	地域の実情に応じて、実施主体として多様なスポーツ団体等(総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団、クラブチーム、アスリートチーム、民間事業者、フットサスクラブ、大学等)を想定しながら対応。学校部活動の組織・団体(地域学校協議会本部や保護者会等)も想定。
活動内容	特定の運動種目に専念する活動だけでなく、休日等におけるスポーツ体験教室や体験型キャンプ、レクリエーション活動、複数の運動種目を体験できる活動、障害の有無に関わらず誰もが参加できる活動など、生徒の状況に応じた機会を確保。適切な活動日数や活動時間とする。
活動場所	既存のスポーツ団体の施設や公共の運動施設の他、地域の中学校をはじめ学校の体育施設なども積極的に活用。
構築方法等	まずは休日について着実に進め、次のステップとして平日に取り組むことを基本とする。地域の実情に応じて平日と休日を一体として構築するなどもある。市町村において、地域スポーツ担当部署や学校の設置・管理運営を担う担当部署、地域スポーツ団体、学校等の関係者からなる協議会を設け、活動の実施主体やスケジュールなどを検討し実行。<令和4年度から令和5年度の取組を例示>

【具体的課題への対応】

現状と課題	考えられる対応
スポーツ団体の数・質の確保(第3章)	○国は各地方公共団体における取組の参考となるよう、連携や支援の在り方について共通の取組をまとめた提言。 ○中学生を受け入れるスポーツ団体等について、必要な手続の確保やスポーツ保険(しほ)の整備を含めた多様な財源の確保による国の支援も検討。地域の実情に応じた支援体制の整備。
スポーツ指導者の質・量の確保(第4章)	○指導者資格の取得や研修の実施の促進。JSPCA、認定団体等が主催する大会において、公認スポーツ指導者資格の取得を義務付け。 ○認定指導者の活用や、教員等による異業種、企業・クラブチームや大学からの指導者の派遣。地域のスポーツ団体等と連携した人材バンクの設置など、指導者の確保(適切な対価の支払い等)のための国の支援の方針の検討。 ○希望する教師が円滑に教職更新の許可を得られるよう、国は許可の対象と取り得る例を周知するとともに、教育委員会には教職更新の運用に係る考え方を整理。
スポーツ施設の確保(第5章)	○学校体育施設の活用を促進するため、地方公共団体やスポーツ団体等が連携・調整するための協議会を設立し、利用ルール等の策定や、利用の振り回りの調整を行う。 ○施設利用の促進・学校の負担軽減のため、放課後や休日の学校体育施設の管理を、指定管理者制度を活用するなどしてスポーツ団体等に委託。

運動部活動の地域移行に関する検討会議提言 (令和4年6月6日) の概要【各論】



加藤 泰久

認知症の予防を

予防に努める（村長）



成年後見制度のパンフレット

問 独居老人、老老介護者の実態は。

村長 村では施設利用者を除く独居高齢者世帯数は508世帯で、全世帯の8%にあたる。老老介護者数は、要介護1以上の介護認定者のいる65才以上で、2人の世帯を抽出してみたらところ80世帯である。

問 認知症の患者数は把握しているか。

村長 認知症患者数については、地域包括センターでは、介護認定の際使用している主治医の意見書をもとに統計をとっている。この統計によると2021年末で介護認定者540人いる。認知症が原因である人は171人で介護認定者の31.7%にあたる。認知症2以上と判定された人

は2022年9月時点で303人である。

問 認知症予防策は講じているか。

村長 予防策としては身体活動や禁煙、栄養的介入には根拠が多く高血圧や糖尿病については管理が多く推奨されている。各地区公民館で行われている元気あっぷクラブでの介護予防教室では、保健

問 成年後見制度の利用者は。

村長 村では利用者数は正確に把握していない。長野家庭裁判所で発表しているデータでは、村における利用者は2021年12月時点で成年後見が26人、保佐が7人である。

問 森林協力金の創設を提案するが。

村長 国では森林環境税、県では森林づくり県民税がある。村では過去にセラピーロード維持費、薬剤樹幹注入協力金として要望したが否定的意見が多かった。村としては森林協力金は考えていない。

「山村うたごえの輪」が20周年。支援を

特定の団体への支援は行っていない（教育長）



唐澤 由江



問 社会教育推進と公民館活動発展のために「山村うたごえの輪」の活動への支援を。12月198回目の「グッドバイコンサート」を開催。公民館とは地域住民が社会教育を推進する拠点として中心的な役割を果たしている。主宰が高齢なので、支援が必要と思うが。

教育長 私10月から兼務だ。来年度4月

健康増進活動の推進

問 森の交流施設運



12月3日 山村うたごえの輪（長野日報社提供）

動講座。予約しないとダメなのか。スマホの活用は。産業課、健康福祉課の合同企画は。

村長 コロナ禍で制限があり予約が必要。スマホ予約は情報化推進部会で検討する。大変人気の講座で運動指導の資格を持った健康コンシェルジュが、今後も種類や曜日を増やしていく。

さらなる農業者支援を

問 「風の村米だより」作付けの経過と補助の実態は。土壌改良剤「米の精」の散布と支援の状況は。

村長 2018年から3年間、10a当たり1万円を補助、422万円。米の精は2021年から米の精購入費として3千円で160万円、2020年から（米の精）施肥助成10a当たり800円で34万円。「風の村米だより」の作付けは2017年は14・51ha、2020年は60ha。2022産はコロナ禍で民間在庫が過剰で、作付面積は上伊那ではマイナス84・4ha、村はマイナス4.5ha。今後「風の村米だより」に散布する鶏糞が値上げするから支援していく。

村職員給与3年ぶり引き上げ

問 村職員の初任給大学卒3千円、高校卒4千円の引き上げの理由は。

村長 人事院勧告による。民間給与との格差是正のため。

問 4月週及適用される影響額と該当者は。

総務課長 30代中場までの初任給が0.3%引き上げられ、報酬単価が0.3%の引き上げとなる。一般職期末手当の引き上げもある。再任用5人の勤勉手当と、一般職の期末勤勉手当で総額763万円。会計年度任用職員320人で、来年度から対応。

問 福祉の充実で医療的ケア児の支援を。重度心身障がい児のコーディネーターが必要。上伊那に配置されていないが。

村長 保健師、子育て教育支援相談室でいいに対応。たけのこ園は独自で配置。上伊那圏域でこれから協議したい。



三澤 澄子

県内19自治体で給食費無償に



社会情勢を見ながら今後検討する（教育長）



安全・安心の学校給食

問 給食センターの建設が始まった。再度学校給食の充実を求める。アレルギー対応の給食数は。

教育長 南小32名、南部小17名、中学21名になっており、少しずつ増えている。除去食、代替食で対応している。

問 地産地消の進捗状況と補助は。

教育長 村内産は南部小3.7%、センターは無償化は各自自治体人口

3.8%、郡内は17%・28%で進んでいない。米は風の村米だよりを全量使っている。県給食会との差額77万円補助する。

問 就学援助の活用は。県内19自治体で給食費無償になっている。村での検討を。

教育長 コロナ後8%10名増になった。引き続き対応していく。無償化は各自自治体人口

村長 医療非常事態宣言も歯止めかからず、確保病床70%超える。県からの行動制限や新たな対策はない。村では、保育園や小・中学校等、実施できる感染対策を取りつつクラス閉鎖を適時行う。保育園は1人陽性でクラス閉鎖する。保護者が仕事を休めない場合は、隔離して保育をしている。村のメール、ウェブサイトで情報発信する。

問 抗原検査、PCR検査は。

村長 発熱時や基礎

減対策で増えている。村の状況、社会情勢を見ながら検討する。

コロナ第8波への対応と今後の取り組み

問 コロナ第8波は過去にない感染。県の指針は。村からの情報発信は。

村長 医療非常事態宣言も歯止めかからず、確保病床70%超える。県からの行動制限や新たな対策はない。村では、保育園や小・中学校等、実施できる感染対策を取りつつクラス閉鎖を適時行う。保育園は1人陽性でクラス閉鎖する。保護者が仕事を休めない場合は、隔離して保育をしている。村のメール、ウェブサイトで情報発信する。

問 行動制限がない中でイベントの開催に課題が残る。来年度へ

村長 CO2濃度で換気を注意する測定器を24基設置。換気が難しい保育園と学校保健室に空気清浄機を設置している。

問 冬の場の感染予防は。CO2測定器の設置、空気清浄機の設置は。コロナ分子は下方に滞留する。エアコンに空気清浄機能のあるフィルターが有効という知見もある。効果的な対策の検討を。

村長 CO2濃度で換気を注意する測定器を24基設置。換気が難しい保育園と学校保健室に空気清浄機を設置している。

問 障がい者福祉計画に基づく施策推進について

村長 障がい者福祉計画に基づく施策推進について

問 就労支援A・B型の状況と事業支援は。グループホームの状況と建設支援は。

村長 きらりあ、まいさぽと協力し支援している。A型で庁内3人、保育2人が就労。B型は村内4人、村外22事業所で123人利用。ひき続き支援していく。グループホームは村内2か所で足りていない。施設整備交付要綱もあり、希望があれば検討していく。

区の役員選出の困難性解消は



山崎 文直



区・組のあり方検討会を立ち上げる（村長）

問 各区は近年、役員の選出が困難。村も一緒に解決する必要がある。業務直轄化を広げる計画は。

村長 区にお願



区民による共同作業

生部をお願いしていた、仕分けされないゴミの分別作業も村で行っている。区長会で、各区役員の状況を共有した。今後は各区で、組織や役員の人数の見直しが進むと思う。

問 村が関わる組織が非常に多いのでは。

村長 村と区や組との関係、役員の負担は昔から変わっていない。現在は核家族化が進行し、高齢者のみの世帯も増えており、以前のしくみを変えていかなければ継続は不可能。実際、働く世代の勤務時間も多様化し、高齢者の中には区や組の役

割を果たせないと責任を感じ、区や組を抜けてしまうケースも増えている。そのため、行政と区・組との関係性や区のあり方など、5年10年先を見据えた検討会を立ち上げて、来年度から動かしていきたい。お出かけ村長室で村民から提案された内容で、進める価値が高いと判断した。有識者も加えて検討し、動画などで公開して多くの人の関心を得られる形で進めたい。時代に合った形に改めていくことで、移住しやすい、暮らしやすい街コミュニティを追い求めていきたい。変えるべきところは変え、長い慣習

は負担が減るよう検討したい。

問 消防団員の確保が困難になっている。ボランティア活動の一環という伝え方も必要では。

村長 本村の消防団員は条約定数230に對し192人で、その約3分の1にあたる63人が村の職員。有事の際、特に自然災害時には、消防団員としての活動が難しい状況。近年の社会情勢やライフスタイルの変化などにより、消防団員は減少傾向。毎年の勧誘活動でも消防団員への理解が得られず、団員確保に苦慮している。団員報酬等の処遇改善、操法大会の中止、区役員等に指名しないことへの配慮、事業者に対する優遇制度など行っている。ボランティア活

動の一環としてということに関しては、区長会の中で「平日在宅している人たちが何かできないか」という思いもある」との話もあった。また、消防委員会の中では「移住してきた人が消防団に入る道筋をつけるべきでは」との意見もあり、今後検討していきたい。

問 将来消防団の活動に参加できるような意識づけの機会を、子ども頃から設けることも必要では。

教育長 ①地域における中学生のボランティア活動の充実
②学校での学びと地域での活動の融合
③消防団の活動内容のいい紹介
これら3つの観点が、将来村を担い活躍していく小中学生へのアプローチになると考える。



原 源 次

発達障がいの理解は



家庭と支援のあり方を共有していく（教育長）



南箕輪村療育施設「たけのこ園」

問 小・中学生および園児の発達障がいの判定状況と現状は。

教育長 1歳6か月・3歳児健診で発達状態など気になる子どもは、医師・保健師からアドバイス。保健師から、子どものニーズに応じステップ教室への参加が促されている。R4年度から「あそびの会」事業を立ち上げ、ステップ教

問 室に通うまでの月齢の子どもの相談に応じた後、保育園・たけのこ園で保育、療育がなされている。小中学生の学習障害・注意欠陥多動性障害など診断判定が出ている児童生徒は、通常学級や特別支援学級、LD等通級指導教室において、それぞれのニーズに合わせた教育支援がなされている。

問 対象者の把握と

指導は、どこでどのようにしているか。

教育長 対象者は、年に一度の県教委による発達障害の児童生徒調査で3校の状況がわかるようになっていく。保育園では、困り感を持つ園児の支援・指導を保育園・たけのこ園で行っている。小中学校では、教育支援委員会

会で適切な学びの場を検討している。支援学級入級の場合は、現学級との交流学习を大事に考えている。通常学級に在籍し特別な配慮や支援が必要な児童は、LD等通級指導教室で自立活動教育を軸に、一人ひとりに合わせた指導を行っている。

問 親や保育園・学校の理解度と対応は。

教育長 保育園・学校では「子どもに学ぶ」を基本に支援指導にあたり、発達障がいにつ

問 カードの必要性の周知方法は。

村長 現状では使用する機会が限られているが、制度が始まった当初から必要性・利便性について、広報誌やウェブサイト等で広報している。

問 交付件数を促すために国のポイント以外に商品券などの発行は。

村長 交付事務費補助金を財源に商品券の配布を行っている自治体もあるが、すでに申請

問 健全財政を今後も維持できるか。

村長 歳入の伸びが見込めない状況は今後も続く傾向で、投資的経費が捻出できないことを懸念している。今後公共施設の長寿寿命計画更新、新型コロナ感染症対策や物価高騰対策、コロナ禍からの地域経済の回復など、優先的に取り組む必要があるが、将来への投資的経費確保に向けて、持続可能な健全財政の構築に取り組んでいく。

令和5年度、予算規模は

総額で66億から70億の範囲（村長）

問 R5年度の予算規模は。

村長 R5年度当初予算歳入は、一般財源ベースでR4年度と同程度と見込む。学校給食センターの建設工事は、学校施設整備基金を充てる予定。普通建設事業などの財源は、

財政調整基金を充てる予定。予算規模は66億から70億の範囲内で編成する。

問 予算編成の重点項目は何か。

村長 継続費の学校給食センター整備、公共施設のLED化工事、役場庁舎・学校など、公共施設の長寿寿命化、コロナ禍からの地域経済の回復など、村民に對して確かな説明ができるものに取り組む。

問 R5年度の村税、税収の見込み額は。

村長 現時点のR5年度の村税見込み額は、R4年度決済見込み額22億7千万円から0.6%

増の、22億8千万円となっている。

農業支援

問 高騰する肥料などに対する個人農家への村での援助の考えは。

村長 国・県では、肥料価格高騰対策事業を実施。JA上伊那も支援を実施する。これらの事業を村としても積極的に広報する。村独自の支援としては、「風の村米だより」で利用している有機肥料の価格が高騰した際は、助成する考え。

コミュニティ対策

問 新規移住者の区・組への加入における村の対策は。

村長

村が進めている区・組への加入促進は、職員による地区相談の他、R4年度より集落支援員を1名配置。現在、区ごとの地区紹介パンフレットを作成中。R4年度は、塩ノ井・南原・大泉の3地区を作成。R5年度以降順次進める。今後有識者を含めた公開の場で検討を行い、暮らしやすい持続可能な地域コミュニティづくりを考える。

不登校への対応

問 村内小中学校の不登校の状況は。

教育長 本村の特徴としては、小学校の不登校児童は少なく、中学校になると多くなる。「自分に自信が持てない」「周囲との関係性に悩む」などを要因として不登校傾向になる。R4年度から「自分らしさを発揮できずに悩んでいる生徒」と認識し、学びの場を校外に求めて動きだしている。図書館や社協などの作業に参加した生徒は、地域の方々との触れ合いに手応えを感じ、自分の行動に少しずつ自信を持つなどしてきている。

営農型太陽光発電施設の検証

問 太陽光パネル下で栽培している農作物の検証結果は。

農業委員会委員長 パネル下では「薬用ニンジン」が栽培されている。生産状況は年々良くなっている。薬用成分は根より茎や葉

した人との平等性の理解を得ることが難しい。

村の財政について

問 物価高が村に及ぼす影響は。

村長 今後も物価高が進むことが考えられ、物件費・建設事業費・扶助費等が増加となり、相当な影響があると思われる。

— 福祉教育常任委員会 —

上伊那クリーン
センター▶



信州ウエスト



見ていく中
で、燃焼排
ガスの熱に
よる発電の
システムや
ごみの中か
ら回収した
金属類など
の有効活用

研修視察

1月16日、上伊那クリーン
センター、(株)信州ウエスト、
南部小学校雨水排水対策工事
の視察を行った。

上伊那クリーンセンターで
は、職員の説明を受けながら
流動床式ガス化溶融炉を含む
高効率ごみ発電施設を見学。
機械総点検で運転を2日間休
止したため、ごみピットが満
杯近くなった状況を視察でき、
この施設の必要性・重要性を
確認できた。出されたごみが
どのように処理されるのかを

南部小学校では、昨年の床
上浸水被害を受けて実施した
雨水排水対策工事の状況を視
察した。流入箇所となった学
校西側に盛り土を施工し、排
水溝と集水桝を校舎を囲むよ
うに設置して、東側の調整池
に流れ込むようになっていた。

(株)信州ウエストでは、
資源プラスチックの分別作業
のようすを見ることができた。
資源プラスチック以外の物や
汚れている物が混入している
こともあり、スプレー缶や刃
物など実際に混入していた物
を見せていただき、改めてそ
の大きさを実感することがで
きた。小学生など子どもの見
学は多いが大人の見学(視察)
は少ないとのこと、ごみの
分別の必要性を地域のみなさ
んに知っていただくには、幅
広い年代が見学する機会が必
要だと感じた。

について知ることができた。
他地域と比べ上伊那はごみが
少ない方だが、ごみが減るこ
とを期待して作った施設なの
で、今後家庭ごみを減らすこ
とが課題であるとの話であっ
た。

その他 活動報告

10/3 伊北議員研修会

テーマ▶「デジタル田園都市国家構想で地域を幸せに」

10/14 諏訪圏工業メッセ視察 総務経済常任委員会

10/21 上伊那市町村議会研修

テーマ▶「農業ヒーリングが開く地域の未来像」

にも参加しました。



南部小学校

昨年の同規模余の雨量であれ
ば対応可能な対策工事がなさ
れていたが、今後引き続き
さらなる豪雨も考えられるこ
とから、注視しなければなら
ないと感じた。

村商工会との懇談会



商工会との
懇談会

懇談を通し
議会も一緒
に活動がで
きればと思
った。

— 総務経済常任委員会 —

10月25日、村商工会(商業・
工業・建設業・青年・女性部
等)との懇談会を開催し、コ
ロナと物価高騰による事業へ
の影響について聞いた。上海
ロックダウンによる部品供給
網の寸断で、部品納期未定や
遅延が多発。また円安や、電
気・ガス・材料費の高騰など
コストの増大が深刻で、売り
上げに転嫁できず収益が悪化
し、運転資金が必要。自動車
のEV化に伴う産業構造も変
化し、中小企業に情報収集の
支援をお願いしたい。介護現
場からは、マスク・消毒液等
の補助の依頼があった。一過
性ではなく先行投資の補助な
どの要望もあった。回復基調
は見通しがつかない状況だが、



農業創生センター

道の駅「童謡のふる里おおとね」農業創生センター
(埼玉県加須市)

H7年、県営の無料パ
ーキングエリア「みちの
オアシスおおとね」とし
て開設。地域農産物や特
産加工品の販売を通じて
農業者と地域住民が交流
する場、また、情報発信機
能を持つ施設として整備
され、H10年に道の駅と
して登録。H17年に(K
K)米米倶楽部が運営。
H18年に指定管理業務を
開始。施設の機能は直売
所・加工所・農村レスト
ランを備え、周辺環境整
備としてホテアオイ花
園が集客を図っている。

東洋ライス(株) サイタマ工場(埼玉県坂戸市)

S36年、精米機メーカ
ーとして設立。米に関す
る分野で技術開発一筋に
歩み、日本の米に「環境
と健康」という新しい付
加価値をつけ、環境浄化
と医療費の削減、生産者
から消費者に至る人に健
康と利益をもたらす技術
を創造している。主要商
品はBG無洗米・金芽米
・ローカット玄米・精米
機器全般。米作農家にと
っては大変な時だが、南
箕輪村ブランド米「風の
村米だより」の作付面積
拡大が必要だと感じた。



東洋ライス

研修視察 (10/31 ~ 11/1)

村境視察・(株)マシンエンジニアリング視察



村境視察



マシンエンジニアリング視察

11月11日、議員、村長、
村職員とで大芝周辺の村
境視察を行った。富士塚
グラウンド南側から西へ
の境界、大芝高原みんな
の森とゴルフ場の境界、
配水池周辺から工業団地
東側の境界、大芝グラウ
ンド北の村道横断部境界
を歩き、入り組んだ村境
を確認した。
(株)マシンエンジニア
リングは、自動組立機で
20~25億の設計製造の販
売。デバイス事業部も立
ち上げた。特殊ユニット
で「ユーザーニーズの実
現と価値の提供」が基本
姿勢という。事業も拡張
予定で、優良企業である
という思いを強くした。

地域おこし協力隊との懇談会



地域おこし協力隊懇談会

11月14日、地域おこし協力隊の
拠点施設「GATHER!」で、
地域おこし協力隊12人中6人と懇
談した。それぞれ担当する業務は
違うが、拠点施設に集まることで
連携や意見交換がしやすいこと
とだった。また、拠点施設で行う
イベントを増やして村民との交流
を深めたいと、意欲的に活動して
いるようすも聞くことができた。
今後その気持ちを大切に、自由
な発想で取り組んでほしい。

きらきら村の仲間たち

南箕輪村は2025年2月18日、誕生から150周年を迎えます。
そこで今回は、記念式典に間に合わせようと『南箕輪村の150年』(仮称)の編さんに取り組んでいる、編集委員長の征矢鑑さんと、副委員長の小澤敏美さん、松澤英太郎さんの3人にお話を伺いました。

これまでの村誌(村の記録文書)

- (1) 明治政府は各府県に郷土誌の編輯を命じた。およそ10年かけて各町村の地理、歴史、旧蹟、沿革、伝承などを初めて公にした画期的な編集事業(明治12年提出)。本村の詳しい地勢が記されている。『上伊那町村誌』所収。
- (2) 昭和50～60年に、村の100年事業として、10年間かけて『南箕輪村誌』上巻(自然・遺跡・信仰・生活・民俗編)、『南箕輪村誌』下巻(歴史編)を刊行。
- (3) 昭和54年『村誌』歴史編刊行の一環として『南箕輪の史跡』を刊行。
- (4) 平成31年『南箕輪の史跡』を一新して『南箕輪史跡の話』を刊行。

150年村誌の作成

村教育委員会は、村制150年記念として村の近代をまとめようと『南箕輪村の150年』(仮称)の刊行を企画。平成を中心とした資料を基に、ダイジェスト版として300ページ程度の冊子を作成する。短期間での作成となるため、プロポーザル方式で編さんすることとした。編集委員8人で、現在進行中。

編さん委員とはどんな仕事ですか？

- 各章立てなど全体構想の検討・作成
- 史資料・写真などの収集、当事者からの聞き取りの立ち合い
- 「血のかよった内容」にするため執筆者との打ち合わせ、意見交換
- 原稿の校正 など



編さん委員会

村の歴史や文化財などについて、次世代に伝えたいことは？

- 旧村誌は非常に立派な内容なので、ぜひ読み返してほしい。
- 村の歴史や民族などを伝える施設の建設、人材の充実を望む。(小澤さん)
- 何もしなければ、歴史も文化財もだんだん消滅してしまう。そうならないように伝えていってほしい。(松澤さん)
- 10年ほど前に郷土館の建設用地を確保したが、人口増への対応で立ち消えになってしまった。村内には貴重な文化財が多くあるが、さらなる史資料の発掘・保管と活用場の確保する施設が必要です。(征矢さん)

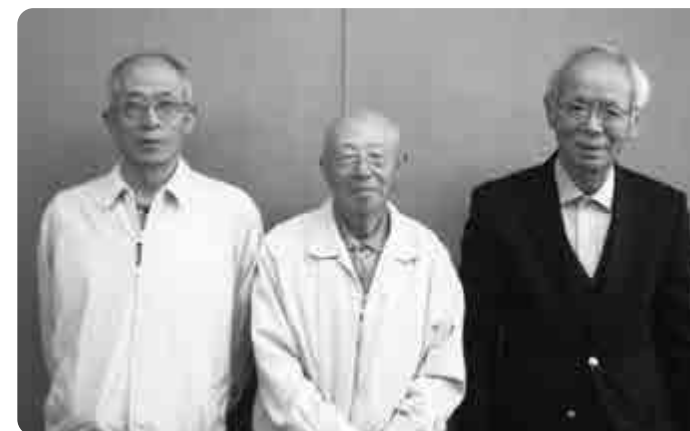


土偶装飾付有孔罎付土器

村民のみなさんに一言

- 古文書・絵図・写真・絵画などの歴史資料を残し、できれば村へ提供・寄託してほしい。(小澤さん)
- 歴史を語るもの、残されている文化財の発見、消滅の危機に気づいたら、文化財専門委員(教育委員会)へ知らせてほしい。(松澤さん)
- 村の文化財は現在、いずみ苑(旧農集排施設)ほか4か所に分散保管している状態です。郷土館も満杯で置き場所もなく、ここ10年ほどは集めるのを止めている。貴重な資料の適正な管理もできない。郷土館を開けても来る人も少ない。歴史は語り継いでいくもの。文化財・古文書をきちんと残していきたい。(松澤さん)

南箕輪は貴重な土器など、遺跡や歴史文書、民俗資料など多くの財産があります。これらをきちんと管理し、整理して村のみなさんに伝え活用していくには、膨大な資金や人材が必要です。150年村誌が将来に活かされる資料となるよう頑張っています。この村誌作成を機会に、みなさんに考えてほしいと思います。



小澤敏美さん、松澤英太郎さん、征矢鑑さん

趣味

征矢さん：囲碁、将棋の観戦
小澤さん：家庭菜園
松澤さん：読書

希望

征矢さん：新郷土館建設を！

好きな音楽

小澤さん：70年代フォークソング
松澤さん：みんなで歌うこと

広報モニターの声

モニターみなさんから寄せられた議会だより誌面や議会に対するご意見を参考に、より親しみやすい議会だより、また議会になるよう努力してまいります。

139号(前号)誌面に対するご意見・ご感想

- p. 2, 3 の議決結果の表は、参考資料のような位置づけでメインページにはもってこない方が良くないかなと思いました。表紙を見ても「読もう」と思っても、最初のページがこれだと若者は読む気が無くなるかも。むしろ、「村民の声を聴く会があります」「村にはこんな方がいます」といった村民の暮らしや政治参加に直結するような内容をメインにするべきではないでしょうか？そこで興味を持った人が後半のページに進んでいくという冊子構成も良いかなと思いました。
- コロナ感染が心配な時、特に高齢者を薬局まで連れていくのは大変ですね。市町村によっては市役所で検査キットを無料で提供している所もあります。とまも便利だと思いました。3月までは希望者全員に何回でも、そんな取り組みもあったらよかったと思います。もし村にもあったのならすみません。
- 18歳以上の選挙権が認められるようになったにもかかわらず、各種の選挙結果の報道を聞くたびに選挙率の低下が非常に気になります。統一地方選挙が近いこともあり、少しでも近い選挙の投票率をあげることができるよう、過去の選挙戦の投票率の推移(地区別も含めても良いかも)、地方議会選挙の意義、選挙権の歴史など紹介することも効果があれば検討していただければと思います。表紙の「ようこそ GATHER！へ」で、場所の

わかる簡単な地図があっても良いのではないかと思います。

- 広報研修会の参加！期待します。モニターさんたちのご意見を深くうなずきながら読みました。モニターにならなければ誌面の端から端までは読まなかったです。関心のある方にはわかりやすいと思います。すべまの世帯に報告は必要ですし、区や組に加入されていない方への報告はどうなのだろうと思いました。ただ新聞のような縦書きで、村報とは少し異なる配置に「あー議会だよりだあ」と区別がつく誌面で、スマホの縦向きの画面・横書きに慣れたきた若い世代には少しなじめないかもしれません。ご意見にあるように 2 パターンもありかと思いました。またはポイントになるようなところを目立たせたり、ポイントになるところを箇条書きにまとめて見やすくわかりやすくしたりとか。現在は読めば面白いですし、わかりやすいです。本当にま

回答▶ 加入していない世帯にも村報と一緒に議会だよりを配布しています。また、村議会ホームページにも議会だよりを掲載しています。

- コロナ禍で、なかなか視察等実施できないと思いますが、実施された場合その感想・取り入れが可能なことがあった場合等、誌面に現したらどうですか？

回答▶ 議会だより、ホームページの議会活動報告の中でも感想等含めていますが、各議員個別のものに関しましては今後の検討課題とします。

- 多方面にわたり、細かく記載されていて良いです。

議会に対するご意見など

- 「安倍元首相がどうの」や「サクラがどうの」という話は村の議会にとって、政治面のサブテーマであるべきで、メインテーマではないと思います。むしろ役場内の風通しを良くするなど村内の課題をメインテーマにしたいと思いました。
- 村民の声を聴く会、とってほしい企画だと思います。またその声が少しでも届くことを願います。
- 若い世代の多い南箕輪村として、その世代の意見や要望をどう議会に反映させていけるかという観点と、地方自治の担い手としても若い世代に、自ら積極的、主体的に村政（村議会）に関わってもらいたいという観点とリンクさせながら、柔軟な取り組み（企画）ができると良いなと思います。

- 議会だより 139 号の『議会だよりモニターの声』に掲載の「各議題について優先順位をつけ、検討していくことも大切だと思います」の意見は同感です。議会だよりも各議員さんの優先順位で内容を載せても良いかもしれませんね。
- 健康に留意し、村の発展に寄与してほしい。
- 「村民の声を聴く会」に参加しました。村民と議会との距離をものすごく感じました。議員さんの顔も名前も分からず、日常から接触が無いのが一番でしょう！私たち村民にも原因があります。互いにもっと努力すべきだと思います。
- 9月定例会での笹沼議員提出の意見書は、村議一人ひとりの思想・信条を自明なものにした。今後、村議一人ひとりの言動を見守る際の指標となる画期的な意見書であった。
- 原議員の広報研修報告を興味深く読みました。今後、具体的にどのような活動が展開されるか楽しみです。

編集後記

3年ぶりに行動制限の無い年末年始となりました。皆さまはどのように過ごされましたでしょうか？

村でも「元旦初走り初歩き」、「二十歳のつどい」などの行事が開催され、少しずつでも以前の日常に戻りつつあることを感じました。

さて、今年4月23日には村議会議員選挙が行われます。任期も残り2か月あまりとなりました。気を引き締めて職務に励みたいと思います。

編集委員
登内 瑞貴